

第2学年 国語科学習指導案

令和7年7月9日(水) 5校時
西原小学校2年1組 計28名

授業者 金城 あかね
共同研究者 喜屋武 敦子
福里 美幸

- 1 単元名 お話を読み、すきなところをつたえよう
教材名 「スイミー」

2 単元の目標

◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(C(1)エ)

○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(C(1)イ)

【思考力、判断力、表現力等】

○身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。

(1)オ【知識及び技能】

3 単元について

(1) 教材観

登場人物の言動を表す言葉を基に、お話の展開を捉えたり人物の様子を想像し、一つ一つの出来事そのものを丁寧におさえたりすることは1年生のときから繰り返し行っている。

本教材は、「スイミー」たちがまぐろに襲われるという事件と、みんなの力で追い出して解決するという「スイミー」の行動によって場面が展開されているため、たとえを表す言葉や様子を表す言葉に着目しながらそれぞれの場面の出来事をとらえ、「スイミー」の様子を豊かに想像するのに適している。お話の様子をより具体的に思い浮かべる際、音読を効果的に組み込んだり、「—のような」「—みたいな」という表現に着目したりすることが効果的であることにも気づかせていきたい。また、単元の学習を通して、自分の好きな場面を見つけ、友達と伝え合うことを意識させていきたい。

(2) 児童観

①単元まとめテスト「ふきのとう(読)」の結果から

テスト問題	回答・正答率	誤答	考察
1.「小さなこえ」は、だれのこえですか。	ふきのとう・・・100%		
2.ふきのとうは、どこにいますか。	(竹やぶ)のそばの(雪)の下 ・・・100%		
3.ふきのとうは、なにをどうしようとかんがっていますか。	(雪)を(どけよう)とふんばっている。・・・82%	(あたま)を(どけよう)とかんがっている。	登場人物の行動を捉えられていない。
4.「よいしょ、よいしょ。」からわかるふきのとうのようすに、○をつけよう。	力いっぱいがんばっている。 ・・・100%		

5. ふきのとうは、どこが見たいのですか。	そと・・・100%		
6. 雪のやさしさがわかるのは、どのことばですか。	「ごめんね。」・・・82%	「よいしょ、よいしょ。そとが見たいな。」 「わたしも、早くとけて水になり、とおくへ行ってあそびたいけど。」	場面のように着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができていない。
7. 雪はどうしたいですか。	早くとけて（水）になり、とおくへ行って（あそびたい）。・・・100%		

4月に学習した「ふきのとう（読）」単元まとめテストの結果から本単元につながる「誰が何をしたか」がわかる言葉に着目して、人物の行動を読み取り「いつ・どこ」がわかる言葉に着目して、場面の様子を捉えることが苦手な児童がいることがわかった。このことから、言葉に着目して場面のようすや登場人物の行動を具体的に想像させる工夫が必要であると考え。

②アンケートの結果から

校内研アンケート

番号	質 問	思 う	少し思 う	あまり思 わない	思 わない
1	めあてをもって学習していますか	60%	27%	9%	4%
2	あきらめずに最後まで学習していますか	58%	29%	10%	3%
3	授業の中で振り返ったことを次の学習につなげていますか	56%	31%	8%	5%
4	授業では、自分の考えを伝えていますか	45%	31%	19%	4%
5	友達の発表を最後までしっかり聞いていますか	75%	18%	4%	3%
6	授業で自分の考えや気持ちを安心して話せますか	45%	31%	16%	8%
7	話し合い活動で自分の考えが深まったり広がったりしていますか	47%	35%	15%	4%
8	友達と協力しながら課題に取り組んでいますか	68%	27%	1%	4%

アンケートの結果から、友達の発表をしっかり聞くことや友達と協力しながら課題に取り組むことはやや高かったが、課題を「捉える・継続する・つなげる」ことに対して児童の意識があまり高くないことがわかった。また、自分の考えを発信することや話し合い活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることに苦手意識を持っている児童が多いことが分かった。このことから、支持的風土を高めて児童が安心して発言できる環境づくりが必要であると考え。

国語科アンケート

番号	質 問	回 答		
1	国語の学習は好きですか	とても好き38%	まあまあ好き53%	きらい9%
2	国語の学習で、どんなことが楽しいですか (複数選択：多い順に記載)	漢字の学習 友達の話を聞く 日記を書く 先生の話聞く 文を書く 自分の考えを友達に伝える 音読をする 発表をする		
3	2年生になって、どんな本を読んでいますか	絵本		

	(複数回答：多い順に記載)	図鑑 こわい話 スポーツ 小説 料理 言葉 生き物 折り紙 迷路 漫画 国旗 そろばん 世界のこと
--	---------------	---

アンケートの結果から、児童の読書傾向として「物語と図鑑」を好んで読んでいることが分かった。このことから、「スイミー」は児童に好まれる教材であると考ええる。しかし、国語の学習で楽しいと感じている活動では、「友達の話聞くこと」は上位だったが、「自分の考えを友達に伝えること・音読をする」は低かったことから、ゴールとしている「自分の好きな場面を見つけ、友達と伝え合うこと」や、つけたい力としている「場面や登場人物のようすを思い浮かべながら読む力」を育むための手立てを講じなければならない。

以上のアンケート結果から、本学年においては一人一人の教育的ニーズに応じた個別最適な学びや協働的な学びができるよう指導内容や支援方法を工夫する必要があると考える。

(3) 指導観

本単元では、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、内容の大体を捉える力を身に付けさせたい。そのために言語活動として、「好きな場面とそのわけを考えて、友達と伝え合おう！」を位置付ける。

第一次の導入では、教師の好きな場面の紹介をすることで、自分の好きな場面を友達と交流したいという意欲を高めたい。また、物語の世界に入りやすくなったり、登場人物になりきって会話を想像できるようになったりするため「マイ吹き出し」を日常的に使用していく。このような手立てにより、登場人物の行動を具体的に想像することを確実に実現させたい。次に、好きな場面とそのわけを考えて、友達と伝え合うという学習課題と学習計画を立てる。さらに、学級文庫に関連する本を置き、並行読書に対する意欲を持たせ、本に親しませたい。

第二次では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、話の流れを具体的に想像する力をつけるために、物語を構成する五つの場面の挿絵を手掛かりに、「だれが、どうして、どうなったか」など、内容の大体が分かる場面の挿絵にマイ吹き出しを当てながら読む学習活動を行う。その際、ペア交流を繰り返すことで、登場人物の行動を具体的に想像させたい。その際に、ICTを効果的に活用していきたい。また、比喩表現や、場面の色彩などにも着目させ、「スイミー」の様子がよく伝わるように音読を効果的に組み込んでいきたい。

第三次の単元末において、好きな場面とそのわけを考え友達と紹介し合う活動を設定した。友達に自分

の考えを伝えるとともに、自分と友達の考えの違いに気付かせ、考えを共有することで自分の考えを広げたり深めたりすることの良さを今後の学習へとつなげていきたい。

(4) 校内研との関連

テーマ:主体的に学び、自分の思いを伝え合う児童の育成
～個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ授業づくりを通して～

本校では、今年度の研究の重点目標として、「支持的風土のある学級づくり」、「個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた授業づくり」、「ICT を効果的に活用した授業づくり」の3つを挙げている。これらは子供たち一人一人の学びと成長に焦点を当てて推進することで、子供たちが自ら学びを進めることができる「自立した学習者」の育成につながると考える。

本単元において

① 支持的風土のある学級づくり

日頃から意識している R7 年度版沖縄県学力向上推進施策「自立した学習者」育成プロジェクトの生徒指導実践上の4つのポイントを基に、子供たち一人一人の学びと成長を支え、安心して学習に取り組める学習環境を整えることに努めている。手立てとして、ペアトークを取り入れお互いの考えを伝え合い、コミュニケーションをとりながら良い関係を構築していけるように場の工夫をしている。

(R7 年度版沖縄県学力向上推進施策「自立した学習者」育成プロジェクトの生徒指導実践上の4つのポイント)

- ・「自己存在感の感受」…児童生徒が、自己肯定感や自己有用感を育む工夫
- ・「共感的な人間関係の育成」…互いに認め合い・励まし合い・支え合える良好な集団作り
- ・「自己決定の場の提供」…児童生徒が、自ら考え、選択し、決定する機会の提供
- ・「安心・安全な風土の醸成」…児童生徒の個性が尊重され、安全かつ安心して学べる環境作り

② 個別最適な学びと協働的な学び

「指導の個別化」と「学習の個性化」を教師視点から学習者視点に転換し、教材、学習方法、ワークシート等を柔軟に教師が提供し学習者が自らそれを試し学習が最適となるよう調整している。そして、どの学習場面で協働的な学びを入れるかを見極めながら学びが深まっていくよう授業づくりに努めている。

③ 学習基盤としての ICT の活用

「自立した学習者」の育成に向け、現代の多様性のある子供たちの学びを、資質能力重視した子供主体の学びへ転換するためには、ICT を学習基盤として最大限活用することが大切であると考え。カードを写真撮影して共有したり、動画を撮影し見直しに使ったりしている。活動の中で、これらの手立てを行うことで、児童が本単元の目標である「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。」を実践し、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、学びが深められるよう活用していく。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(I) オ)	・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。C (I) イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C (I) エ)	粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の好きな場面を伝えようとしている。

5 単元の指導計画・評価計画

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
第 1 次	1	○教科書 P67 のリード文や題名、挿絵を基にどのようなことが起こりそうかを予想し、交流する。 ○教師の好きな場面の紹介を聞き、「スイミーの好きな場面を伝え合おう」という課題をもつ。	・単元の導入前から、学級文庫に関連する本を置き、読み聞かせをしたり、紹介したりする。 ・「マイ吹き出し」は、日常的に使うようにしておく。 ・どのような出来事が起こりそうか、具体的に想像させる。	・単元の目標を確認し、見通しをもって学習を進めようとしている。【記述・発言】
	2	○学習計画を立てる。 ○物語の五つの場面を確かめながら、お話の好きな場面を探し内容の大体を読んで、好きな理由を書き交流する。	・1年で学習した「たぬきの糸車」で好きな場面を選んで書いたことを想起し、学習の見通しをもたせる。 ・「好きだな」と思うところについて理由を含めて具体的に交流し、友達との違いからスイミーの行動にかかわる疑問や、いちばん好きな場面やその理由への問いをもてるように促す。(マイ吹き出しの活用) - 支援 好きなところを見つけるのが難しい児童には、「おもしろい」「もう一度読みたい」などと考えやすい言葉に変えて問いかける。 ・「場面」という学習用語を確	

			かめる。 ・ ICT の活用	
第 2 次	3 4	○登場人物の行動や出来事を中心に、話の流れを確かめる。	・ 物語を構成する五つの場面の挿絵を手掛かりに、「だれが、どうして、どうなったか」など、内容の大体がわかる場面の挿絵に吹き出しを当てながら読ませる。 ・ ペア交流を繰り返すことで、登場人物の行動を具体的に想像させる。	知 身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。【発言・記述】 思 「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。【発言・記述】
	5 6 7	○言葉に着目して、場面の様子や「スイミー」の話し方を思い浮かべ、登場人物の行動を具体的に想像し、好きな理由を書き交流する。	・ 比喩表現や、場面の色彩などにも着目させ、「スイミー」の様子が伝わるように音読させる。 ・ 吹き出しを当てながら繰り返し読み、好きな場面を選ばせる。 ・ 全文揭示の自分の好きな場面に名前を書いた付箋紙を貼り、この付箋紙を手掛かりに相手を選んで交流を繰り返す。	思 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。【発言・記述】 態 粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の好きな場面を伝え合おうとしている。【観察・記述】
	8 本 時	○交流を繰り返し好きな場面とそのわけをはっきりさせ、カードに好きな場面と理由を書く。	・ 選んだ好きな場面に吹き出しを当てて会話や場面の様子を想像させる。 ・ 登場人物のしたことや言ったことを基に、「好きなわけ」を考えられるようにする。 ・ 全文揭示を手掛かりにペア交流を繰り返し、好きなわけをはっきりさせていく。 ・ わけがはっきりしたら、「すきなわけ」を書き出す。 ・ ICT の活用 【個別の支援・指導】 児童の実態に応じて、文字数の目安を示したり、文型を示したカードを用意したりする。また、どのような場面かをうまく書けない児童には、その場で	・好きな場面を一つ決め、その理由やその場面の様子を書いている。【記述】

			いちばん大事な文を選択して書き写すように促す。	
第3次	9	○まとめた文章を基に、感想を交流する。 ○学習を振り返り、学んだことをまとめる。	・教科書 P79 下段「③話し方のれい」を参考に交流させる。 ・教科書 P79「ふりかえろう」や教科書 P80「たいせつ」、「いかそう」を活用して、学習の振り返りを行う。また、「この本読もう」に挙げられている作品に関心をもたせる。	・積極的に友達と感想を伝え合おうとしている。【観察・発言】 ・学習を振り返り、身につけた力を今後の学びにいかそうとしている。【発言・記述】

6 本時の指導「スイミー」(8/9時間)

(1) ねらい

お気に入りの場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話を具体的に想像し、好きなわけをはっきりさせることができる。

(2) 本時の評価規準

評価の観点	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の好きな場面を伝え合おうとしている。
評価方法	授業内：観察・記述 授業後：ワークシート（ふりかえり）

(3) 「めざす子どもの姿」の実現に向けた授業改善(教材・発問・問い返し・過程工夫等)

場 面	工夫点	めざす子どもの姿
自分の考えを共有する場	ペア交流を繰り返すことで、好きなわけをはっきりさせる。	自分考えが変わったり、広がったりする。
自分の考えを決定する場	児童の実態に応じて、文字数の目安を示したり、文型を示したりしたカードを用意し選択させる。	好きなわけをはっきりさせ、次時につなげる。

(4) 展開

過程	学習活動	予想される児童生徒の反応	・指導上の留意点、評価□
導入 (5分) (つかむ・見通す)	1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 ○一つ一つの場面の様子やスイミーの様子を思い浮かべて、ノートに書いてきましたね。いちばん好きな場面はどこですか。 ○今日は、好きな場面とそのわけをカードに書きましょう。	・私は五の場面が好きです。 ・ぼくは、三の場面が好きだな。 ・ぼくは、四の場面が好きです。 ・楽しみだな。 ・難しそうだ。	・これまで書いてきたワークシートを用意させ、適宜見返すことができるようにする。
	めあて：好きなばめんをきめて、そのわけをカードに書こう。		
展開 (32分) (考える・深める)	2 好きな場面を友達に伝えるための、語の構成を知る。 ○79 ページの「③話し方のれい」を見てください。 ○好きな場面の他に、何を伝えればいいですか。 ○それでは、あなたが好きな場面と、それがどのような場面か、どうしてその場面が好きなのかを考えましょう。 3 好きな場面とそのわけを書く。 ○カードに好きな場面とそのわけを書きましょう。	・好きな場面が、どのような場面か伝えます。 ・その場面が好きなわけを伝えます。 ・これまでのカードを見返してみよう。 ・友達の原因も聞いてみたいな。 ・どのカードに書こうかな。	・教科書 P79「③話し方のれい」を確認し、単元の学習計画表を基に、本時のめあてを確かめられるようにする。 ・これまでの学習において、「その場面の好きなところ」、「その理由」を書き溜めてきている。それらを振り返って考えさせる。 ・選んだ好きな場面に吹き出しを当てて会話や場面の様子を想像させる。 ・登場人物のしたことや言ったことを基に、「好きなわけ」を考えさせる。 ・全文掲示を手掛かりに、書き溜めていたカードを基にペア交流を繰り返し、好きなわけをはっきりさせていく。 ・わけがはっきりしたら、「すきなわけ」を書き出させる

展開 (32分) (考える・深める)	4 好きな場面を伝える練習をする。		【個別の支援・指導】 児童の実態に応じて、文字数の目安を示したり、文型を示したカードを用意したりする。また、どのような場面かをうまく書けない児童には、その場面でいちばん大事な文を選択して書き写すように促す。 態 粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の好きな場面を伝え合おうとしている。【観察・記述】 ・(ICTの活用)
終末 (8分) (まとめる・振り返る)	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 ○お話の好きな場面を伝えるための文章を書くことができましたね。次は、たくさんの友達と、好きな場面を伝え合いましょう。	・楽しみだな。 ・うまく伝えられるといいな。	・本時のめあてを基にふりかえりを書かせる。

(5) 板書計画

ふりかえり	話し方の(例)	めあて すきなばめんをきめて、そのわけを書こう。	スイミー	ゴール スイミーの好きなばめんをつたえあおう	つきたい力 ばめんやとうじょう人ぶつのようにすき 思いうかべながら読む力
-------	---------	-----------------------------	------	---------------------------	--